

丸森英史●

見晴らしの良い本である。読んだ以上のものを見通すことができる。『歯界展望』の連載をまとめた書籍であり、連載時から興味深いコラムであった。教条的ではなく広い視点が魅力的な内容で、「予防歯科の話」をしながら歯科全般に話は広がり、予防を題材に臨床の見方を解いている。著者(大野純一氏)にお会いし、その若さに驚いた。もっと上の年代の方かと思いついていたが、予防歯科臨床を理解するのに年齢は関係なく、才能と出会いにより花が咲くものであることを実感した。理解すると伝えたいくなるその一途さは若さ故であり、予防という地味な内容でも若さのエネルギーを感じる。そこが見晴らしの良さや清々しさを感じさせる所以であろうか。

いきなりのマーロウ先生の一言に「文献や(予防)グッズに流されてしまう、これは見ていて辛いものだ」とあるが、何のこと? 誰のこと? だろうか。補綴の進歩はグッズの進歩でもあった。グッズを巧く使わなければ補綴はできない。大学で学ぶ補綴学はこの技術習得にほとんど費やされ、「手が動かない」とは今時の若き歯科医師を揶揄する常套句である。当然、技術が無ければ補綴は一步も進まないが、補綴は技術論だけでなく、補綴の「本質とは何?」、「本当は何が必要なの、それは本当に必要なことなの?」など、その問いが求められているように思える。つい出来映えを競い、物としての完成度を求め、歯周組織においても美しさを症例写真で競ってしまう。健康は美しい、これは真理であるが、いつしか美しさを意図して作る事になると、盆栽のような世界に入っていくってしまう。

本書は哲学書ではなく考えることへの指南書である。しかし考える事が目的ではなく、その先がある。よって内容を理解することで終わってはならない。

だれもが、自身は考えて仕事をしていると思っ



では、予防歯科の話をしようか
マーロウ先生の北欧流レッスン
大野純一 著
A5判 104頁 定価 2,730円(本体 2,600円+税 5%)
医歯薬出版株式会社

る。まずは真似しろとは、一つの真理である。繰り返すことが気持ちが良いのは、それだけでも少しは上手になるからであるが、それでハマリ、結局考えなくなってしまう。

考えると、疑問を持つこと、問いを立てることであり、流れをあえて断ち切る事である。我を振り返り、他人の意見に耳を傾け、自分自身に問いを立てる事は、かなり意識をしなければできない。本書の内容は、予防を題材に臨床をみる視点を広げる方法論に満ちている。これが欧米の歯科教育のスタンダードなのか、日本も既にこれほどの教育が行われているのか、筆者には分からないが、本書は欧米で学んだ若き歯科医師の勉学の成果でもある。

本書から得られることは、「答え」ではなく、「答え」への道を見つける気付きである。問題はそれからである。臨床を見据える方法論を身につけ、何が見えてくるのか。今、流行しているサンデル氏の書名に似ている本書は考えること、話し合うことを通して、臨床の興味深さを分かち合う必要性を説いている。若き歯科医師、歯科衛生士に、ぜひご一読を勧めたい。

(まるもりひでふみ 〒231-0013 横浜市中区住吉町6-68-1 横浜関内地所ビル9階 丸森歯科医院)